



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 細谷 俊夫 幹 事 伴 誠 会報・雑誌委員長 床井 光雄

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ 例会日 毎週火曜日(12:30~) 事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3076号 2025年1月14日(晴れ) 第26回例会 会員数100名

ハイブリッド例会

点 鐘 細谷 俊夫 会長
司 会 副SAA 杉本会員

- ◇ロータリーソング「我等の生業」
- ◇本日のランチ 小付 焼物 煮込みハンバーグ
香の物 汁 御飯 デザート

ビジター紹介

細谷会長

◇来訪ロータリアン

1名(1クラブ) 累計26,657名
卓話講師 RI2550地区 職業奉仕委員長
田中 正夫 様(宇都宮南RC)

会長挨拶

細谷俊夫会長

皆さん、こんにちは。昨日、当クラブが協賛しています、宇都宮チャンピオンカップ少年サッカー大会に寒い中行ってきました。子供たちがはつらつとプレーするのを見て、元気をもらって来ました。

1月は、「職業奉仕」月間です。ロータリークラブの職業奉仕は、ロータリアンが自己改善と自己研鑽を通じて、自身の職業や職場に適用し、業界のモラルを向上させる奉仕活動です。また、職業奉仕とは、倫理と高潔さをもって仕事にあたり、職業の知識やスキルを社会のニーズ解決のために進んで役立てる事です。ロータリークラブ会員からロータリアンに進化していく過程の基盤には、A. シェルドンの「超我の奉仕」「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」が存在いたします。私たちは、この2つのモットーを1枚のコインの表・裏と考えながら、日常の奉仕活動に邁進しております。ロータリーは「理念の高唱」に終わるのではなく「行動の哲学」なのであります。今日は、RI第2550地区職業奉仕委員長の田中正夫様が卓話にお見えになっておりますので、職業奉仕の貴

重なお話が聞けるとお思いますので、最後までよろしくお願ひします。

新会員紹介

紹介 尾野崎会員



氏 名 富久田 孝夫

年 齢 68歳

事業所名 東武建設(株)

役 職 常務取締役

職業分類 総合建設

所在地 〒320-0808 宇都宮市宮園町5-4

電話番号 028-637-3321

FAX番号 028-633-3481

推薦者 山本修一会員 尾野崎孝夫会員

幹事報告

伴幹事

◇来週1月21日、第5回クラブ協議会開催。前期決算並びに会計監査報告、後期予算(案)の審議と採決。ご出席を。

◇いのちの電話のちらし、各テーブルに配布。

委員会報告

◇親睦委員会 中山委員長

<誕生祝い・1月>

会員誕生

富貴塚真人、橋本 統、入江 武、

金子 剛、熊倉 秀樹、倉井 章、

柳田 慎治

各会員

夫人誕生

蜂須賀 勲、今泉 一、金子 剛、
小林 弘治、佐々木貞雄、高野 藤房、
田崎 信孝、渡邊 有規
各会員の奥様



卓 話



「職業奉仕について」

R I 第2550地区 職業奉仕委員長

田中 正夫様 (宇都宮南RC)

皆さん、こんにちは。市田登ガバナーは、地区目標として「ロータリーを楽しもう」と掲げられました。この目標に対して、職業奉仕委員会として何ができるのかを考えていきたいと思ひます。「ロータリーの根幹は職業奉仕にある」と言われていますが、一方で、「職業奉仕という言葉は難解でよくわからない」ということもよく聞きます。難解なままでは良くありませんので、それを明解にしていくことをテーマにしていきたいと思ひます。ただ、答えはひとつではなく、皆さんのそれぞれ心の中で持っていていただければと思ひます。今日は、地区委員長という立場でお話させていただきますのですが、これからお話する内容は、私個人の思いと考えをそのままストレートに伝えさせていただきます。

※配布資料に沿って説明

退会防止や会員増強のためには、会員それぞれがロータリアンであることを本当に楽しんでいただく必要があります。楽しいということで頭に浮かぶのは親睦活動で重要で、そして、社会奉仕活動、これも重要で、ただ、我々会員は職業人です。親睦活動や社会奉仕活動はもちろんですが、我々の職業活動をより意義深いもの、味わい深いものにしていくことに対して、ロータリーが役立つことが大切で、思ひます。このことがロータリーの公共イメージの向上にもつながっていくものと思ひます。

ロータリークラブをもっとも単純な一言で言うとは何ですか？と問いかけた場合、「奉仕団体」という答えが、一般の人たちだけではなく、ロータ

リアンからも返ってくると思ひます。そこで「奉仕」の意味をどう考えるかです。自分を抑える、自己犠牲というイメージが一般的には強いと思ひますが、私は、奉仕とは「できるだけ人や社会の役に立とうと努力すること」という意味で使えば良いと考えています。そのことへの対価を求めるのは職業人として当然で、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。」というシェルドンの言葉の意味が、最近になってより深く理解できたような気がしていますが、シェルドンは「職業は社会に奉仕する手段である。」という言葉も残しているように思ひます。同感で、これこそが職業奉仕を端的に表していると思ひます。私は「職業とは、人の役に立って生活の糧を得ること」と定義したいと思ひます。まさしく生業です。ロータリーソング、「我等の生業」は、そのまま、職業奉仕を歌っているわけです。職業奉仕という四つのテストですが、1番目の「真実かどうか」は「嘘いつわりはないか」、2番目の「みんなに公平か」は「関係者すべてに公明正大か」と訳したほうが良いと思ひます。2007-2008年度の近藤ガバナーが公式訪問でおっしゃっていましたが、そのことをずっと覚えて書きとめています。四つのテストもロータリーの職業奉仕の一つの柱になっています。

職業奉仕活動は団体ではできないと思ひますが、先ほど細谷会長とお話したら、「当クラブは優良警察官の表彰を行っている」と伺いました。これはまさしく、職業奉仕だと思ひます。ただ、基本は、会員ひとりひとりが自分の職業活動を充実させていくことが職業奉仕です。そのため例会に出席し、卓話を聞き、時には自分が卓話者になり、出席者と会話を交わす。社会奉仕活動や親睦活動などにも参加する。これらはすべて、会員自身のためです。会員の心の中で、これは自分のためだと思ひていただきたいと思ひます。そう考えると、ロータリー生活がより楽しめると思ひます。

社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、その他の奉仕活動、これらはすべて職業奉仕のための手段であると、私は考えています。奉仕活動によって、感謝される喜び、視野が広がる、考え方が柔軟になる、人脈が充実します。信用と信頼を獲得し、よりよい職業奉仕ができる。これが、ロータリークラブの本質であると考えています。ロータリーの目的として「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。」と掲げられています。つまり、事業ないし職業の基本は奉仕であるということです。職業奉仕の理念を難しく考えてはいけないと思ひます。ロータリークラブの会員であることの幸せを、少しでも多く、会員の皆様に味わってほしいと心から願ひます。